

C

S

Corporate

Social

Responsibility

N

R

I

N

O

I

A

# 未来創発

Dream up the future.

野村総合研究所は、  
新たな未来を創り出します。

NRIグループの企業理念は「未来創発」です。  
変化が激しく先の予測がつかないこの時代。  
社会をしっかりと見据えながら  
確かな未来を切り拓いていきたい。  
そのために、新しい価値を創造することで  
世の中に貢献したいと私たちは願っています。  
NRIグループは「未来社会創発企業」として  
あくなき挑戦を続けていきます。

## ごあいさつ

野村総合研究所（NRI）は、調査・コンサルティングから情報システムの設計・構築・運用まで、一貫したサービスを提供しています。

当社は、コンサルティング事業を通じて、世の中が変化する方向を見定め、その変化が及ぼす社会への影響やお客様の課題を発見し、対策を提案する「ナビゲーション」機能を発揮しています。また、システム事業を通じて、お客様と共に課題に対する解決策を考え、その手段となる情報システムを作って安全に稼働させる「ソリューション」機能も提供します。この2つの機能の相乗的な遂行が、NRIグループの独自性をかたち作っています。

こうした独自の強みを発揮することで、企業市民の一員であるNRIグループは、事業を通じて社会的責任を果たしてまいります。同時に、社会のライフラインとなるIT(情報技術)サービスを提供する責任を自覚し、サービスの品質向上にたゆまず取り組んでいきます。また、さまざまな関係者の声に真摯に耳を傾け、自らの行動を律していく所存です。

東日本大震災から3年以上が経過した現在も、復興は道半ばであると認識しています。被災地域の一日も早い復興を心より祈念するとともに、「震災からの復興と日本再生」という、わが国にとって大きな課題につきましても、NRIグループとして引き続き、全力を挙げて支援してまいります。

株式会社野村総合研究所  
代表取締役社長

嶋本 正



# 社会につなぐ、未来をひらく

若者を支援するNRIらしい人づくり



「IT戦略体験プログラム」を受講する高校生

これからの社会を担う子どもたちや学生に、未来について考え、将来のための選択肢を増やしてほしい。そんな思いから、事業で培った経験やノウハウを活かして、さまざまな人づくりプログラムを提供しています。本業を土台とした、NRIらしい社会貢献の姿です。

NRIグループの企業理念は「未来創発」です。この理念を実現するには、将来を担う若い世代の能力を引き出し、育てていくことが大切です。そこでNRIグループは、子どもたちや学生が自分で将来の進路や職業を選択し、社会で能力を発揮できる大人になってほしいとの思いから、多様な教育支援プログラムやイベントを提供しています。

キャリア教育プログラムの一つとして、小学生・中学生に実施しているのが情報システム学習プログラム「便利を支える情報システムの秘密」です。主に、

事業所周辺の学校を訪問して行っています。このほか、中学生・高校生向けの「IT戦略体験プログラム」や、高校生向けの「コンサル1日体験プログラム」「チームビルディング研修」もあります。

どのプログラムも、NRIグループが日頃の事業として取り組む情報システムの開発や運用、経営コンサルティング、調査・研究活動などの経験や知識を取り入れています。講師はシステムエンジニアやコンサルタントなどの社員。スライド資料や使用する教材はすべてオリジナルで用意しています。参加者は、自ら



事業所周辺地域の小・中学校にNRIグループ社員が出向いて授業を実施

考え、議論し、発表する、という体験型の授業を通じて、情報システムやビジネス、社会の仕組み、システムエンジニアやコンサルタントの仕事、「働くこと」とはということか、などを実感していきます。

NRIグループとはどんな会社なのか。情報システムは社会でどのように役立っているのか。NRIグループの事業に馴染みのない小・中学生や高校生に、理解を促す目的でプログラムは始まりました。今では、将来の職業や社会のあり方について考えるきっかけにもなっています。

## 情報システムを通じて 社会の仕組みを実感!

- 便利を支える情報システムの秘密

情報システムや多くの人々の働きによって、ビジネスや社会が成り立っていることを理解できるプログラムです。児童がスーパーマーケットの1日店長となり、売上を伸ばすためにどのような新商品を置くべきかグループワークで考えていくなかで、情報システムやビジネスの仕組みを実感します。



「実社会の様子がわかる」「働くことへの興味や意欲が高まる」「自分で考え、課題に取り組む力がつく」。多くの学校からはそんな評価をいただいています。学校では、学生たちが実社会でいきいきと活躍できるようにするための道を模索しています。NRIグループは事業の特性を活かしたキャリア教育を通じて、学校への支援を行っています。これらの活動が認められ、「便利を支える情報システムの秘密」と「IT戦略体験プログラム」が、経済産業省の第4回「キャリア教育アワード」の奨励賞を受賞しました。



「社会で働く」をリアルに体験する

- チームビルディング研修
- コンサル1日体験プログラム
- IT戦略体験プログラム



上: チームワークは仕事において重要。「チームビルディング研修」に参加する高校生  
下: 高校生を対象に実施した「IT戦略体験プログラム」。システムエンジニアの社員が講師を務める



高校生が参加する「コンサル1日体験プログラム」。経営コンサルタントの仕事体験

NRIグループの事業である情報システムやコンサルティングの仕事の体験を通じて、「働く」とはどのようなことか、世の中にどんな職業があるのか、実感できるプログラムです。ゲーム感覚で楽しみながら、自分で考え、課題解決に挑戦していく内容です。



働くことへの興味・関心が広がる!

- 社員による出前授業

NRIグループの社員が出身校を訪問し、自身の仕事について語るプログラムです。学生時代、および社会人になってからの経験を踏まえ、将来に向けて今から何をしておくかとよいかなどを伝えます。

次世代を担う学生たちに、日本の将来について考え、提案してもらう場を提供する活動も続けています。

その一つが、大学(院)生を対象にしたフォーラム「未来創発キャンパス」です。NRIグループ社員と学生が集い、未来について議論を深めています。2013年は「2030年に向けた未来のつくりかた」をテーマに、東京と大阪で開催しました。合わせて417名の学生が参加し、講演やトークセッションを通じて「どんな未来をつくり出したいか?」「未来のビジネスモデルはどうやってつくり出すのか?」「次世代の人材が身につ



未来社会について議論を深める!

- NRI未来創発キャンパス



上: 2013年は417名の大学(院)生が参加  
下: トークセッションの様子

大学(院)生とNRI社員との対話を通じて未来について考えるフォーラム「未来創発キャンパス」。2013年は東京と大阪で開催しました。どのような未来をつくるのか、そのために何をすべきか、考える機会となっています。

ける思考法や技術は何か?」などについて考えました。

また、高校生・留学生・大学(院)生に、日本や世界に目を向け、将来について考え提言してもらう目的で、2006年から「学生小論文コンテスト」を毎年開催しています。学生にとっては、社会に自分の意見を発表する機会となっています。2013年のテーマは「世界に向けて未来を提案しよう! あなたが考える“わくわく社会”を描いてください」でした。大学や高等学校、高等専門学校、日本語学校などから、過去最多となる1,518本の論文が集まりました。コ

世界に向けて未来を提案する!  
● NRI学生小論文コンテスト

高校生や大学(院)生が、未来について考え提言する「学生小論文コンテスト」。将来の自分の夢と、その実現のための具体策を文章にまとめます。毎年、日本と世界の新たな関係づくりや、明るい未来に向けた力強い提案があります。

上: 2013年の入賞者のみなさん  
下: 提言内容を発表



ンテストの審査には、NRIグループ社員、ならびに特別審査委員として池上彰氏(ジャーナリスト・東京工業大学教授)と最相葉月氏(ノンフィクションライター)が携わっています。

こうした人づくり支援プログラムには、企画から運営まで多くのNRIグループ社員が有志で参加しています。普段の仕事とは異なる場で社会のために活動する体験は、社員にとって、自身の仕事で果たす責任を再確認するとともに、働く意欲向上のきっかけにもなっています。

# CSRブック2014 Contents



調査と提言

10 | 11



企業の業務革新

18 | 19



ステークホルダーとの対話

26 | 27



企業理念  
ごあいさつ

2 | 3



制度設計支援

12 | 13



環境への配慮

20 | 21



NRIグループのCSR方針

CSRの重点テーマ

28 | 29



CSRブック2014  
特集  
社会につなぐ、  
未来をひらく

4 | 5



グローバル展開

14 | 15



事業継続

22 | 23



NRIの事業

編集方針

30 | 31



CSRブック2014  
特集  
社会につなぐ、  
未来をひらく  
(続き)

6 | 7



社会のインフラ

16 | 17



働き方

24 | 25



# オリンピック後も、活力ある日本であるために



日本のあるべき姿を提示し  
活力ある未来へ導きます。

NRIグループは創業時から多様な分野において調査・研究活動を行い、日本の発展に向けた政策・施策を提言してきました。2020年に開催が決まった東京オリンピック・パラリンピック大会は、日本が活気づく一大イベントとして期待されています。しかしオリンピック終了後はどうでしょうか。日本が活力ある社会をいつまでも維持していくために、NRIグループはオリンピック後も見通し、レポートや書籍、フォーラムなどを通じて、日本のあるべき将来像を社会に提言しています。例えば未来創発センターの「2030年研究室」が進める「日本価値創造プロジェクト」では、2030年代に良質で魅力的な仕事を創出すべく、革新的なアイデアでビジネスに取り組む「革新者」100人との対話を通じてそのヒントを探っています。日本の未来を展望しながら、NRIグループは発信を続けています。

## 「革新者」が導く日本の将来

「2030年研究室」の活動を通じて、日本の将来像を提言したのが書籍『2020年の日本 革新者の時代』です。日本には、革新的なアイデアでビジネスを創り、社会の変革に臨む「革新者」が現れています。本書では彼らの実践例を挙げながら、日本が活力ある社会を2020年以降も維持していくための道筋を示しています。



# 社会に変化をもたらす新しい仕組みをつくる

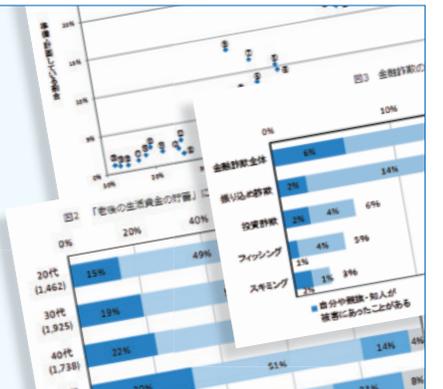


調査・研究や提言活動から  
新たな制度やビジネスを生み出しています。

日本に活力をもたらすには、新しい社会のための制度づくりが不可欠です。2014年に始まったNISA(少額投資非課税制度)はその一つ。資産形成の機会を広げるとともに、日本の金融・資本市場の活性化を目指すこの制度は、英国のISA(個人貯蓄口座)を手本としています。5年以上前からISAに着目していたNRIグループは、その仕組みや導入効果などについて調査・研究を重ねていました。そして、当局と連携しながら日本版ISA導入に向け制度実現を後押ししました。また、いち早くNISAに必要な金融機関向けソリューションを整備することで導入企業を支えました。2016年から始まるマイナンバー制度のあり方についても、国や自治体にさまざまな提言をしています。2013年は「生活者1万人アンケート」の分析結果をまとめて書籍を刊行しました。NRIグループの調査や提言は、活力ある社会への道筋をつけるものと自負しています。

## 「生活者1万人アンケート(金融編)」による意識・行動の把握

NRIが定期的に行っている「生活者1万人アンケート」。2013年は金融編を実施しました。「老後の生活資金の貯蓄」について調べたところ、若年層の関心も高く、20~30代のうち約5割は「準備や計画はしていないが興味がある」と答えています。金融詐欺についての調査も行い、その実態を社会に伝えています。



# その国の発展を導く環境づくりに貢献



投資や消費が拡大し、成長を続けるタイ

市場整備やインフラ提供を通じて  
アジアの産業発展に寄与しています。

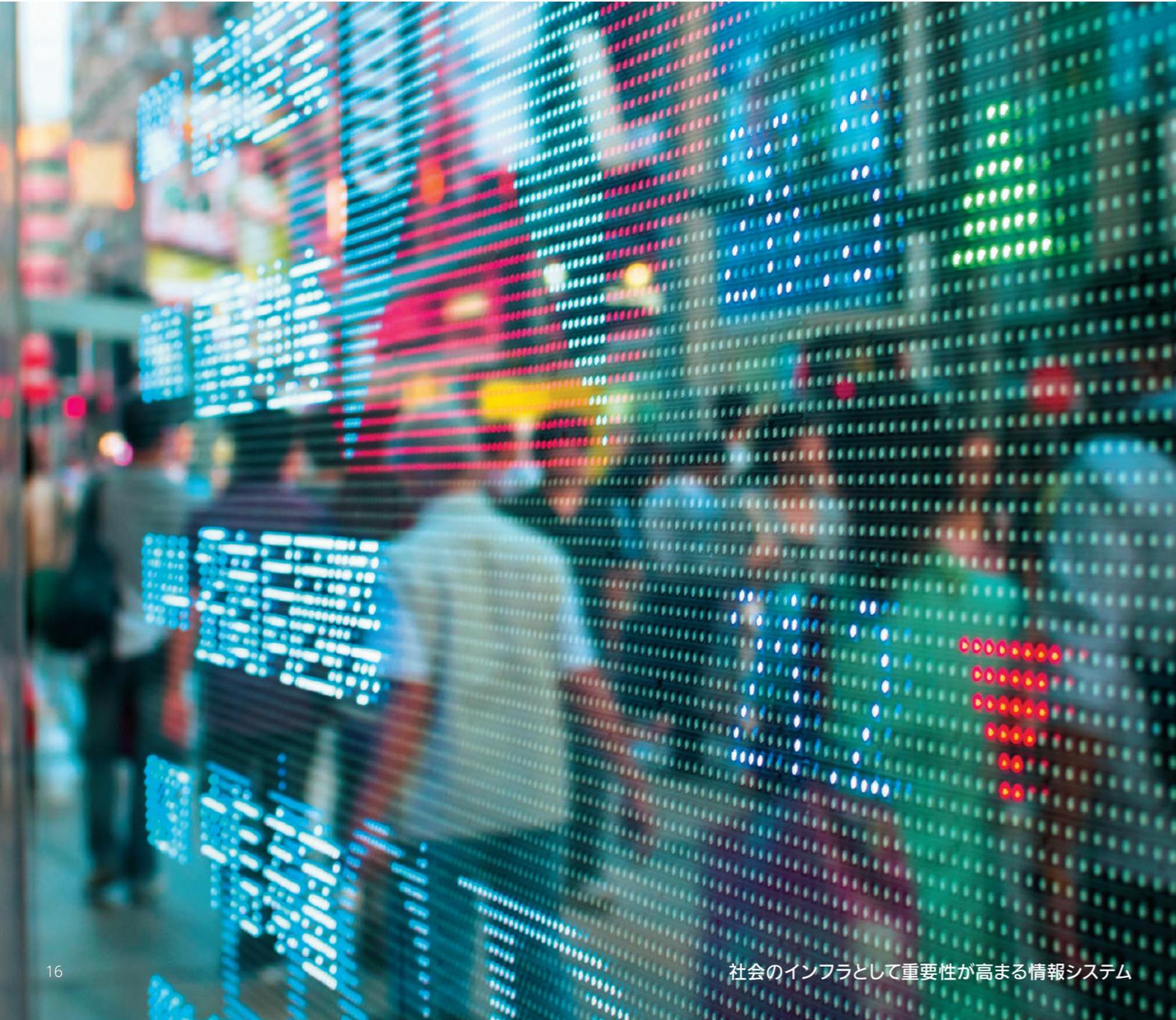
ASEANを中心にアジアでは、消費や投資が大きく伸び続けています。経済成長を持続的に支えるにはインフラなどの環境整備が必要です。NRIグループのインド拠点の一つであるNRI FT Indiaは昨年、インドおよびモンゴルの現地会社と提携して共同利用型の証券システムをモンゴルの証券会社に提供しました。この仕組みによってモンゴルでは、証券業務の大幅な効率化を果たしています。またNRIグループは、シンガポールにあるNRIアジア・パシフィック（NRI APAC）をアジアの中核拠点と位置づけ、新たに開設したNRIタイ、およびNRI APAC マニラ支店などの各海外拠点と連携しながら、より地域に密着した体制を整えました。海外拠点数は2014年4月時点で22となっています。今後もNRIグループは海外事業を通じて、各国・地域の市場整備や産業発展を支えていきます。

## 中東諸国やアフリカ市場への橋渡し

NRIは、産業多角化を目指すサウジアラビアなどの中東諸国において、日本企業誘致などを推進しています。またアフリカ市場の可能性に早くから着目し、日本企業のアフリカ進出を支援しています。同時にアフリカにおけるビジネスの魅力やアフリカ市場の動向などを、各種のイベントやNRIが主催するマスコミ向け「メディアフォーラム」で伝えています。



# 動かし続けることが、社会への責任



社会のインフラとして重要性が高まる情報システム

業界標準となる仕組みを提供。  
企業の競争力も高めています。

「業務系情報システムを複数の企業で共同利用する」という考え方が日本で一般的ではなかった40年以上も前に、NRIは共同利用型サービスを立ち上げました。今ではNRIの多くのサービスが、さまざまな業界の標準的な仕組みとして役立っています。国内の多くの証券会社が利用する総合バックオフィスシステム「STAR」もその一つ。2013年には業界最大手の野村証券株式会社も利用を開始しました。NRIの共同利用型サービスを利用すれば、企業は独自システムを持つよりコストや手間を抑えることができ、その分、本業の価値向上に注力できます。「STAR」は証券業界を支えるインフラとして、重要性が一層高まっています。社会の基盤であるとともに、利用企業の事業を支える仕組みを提供するNRIグループは、システムやサービスを安全に動かし続けることが、社会に果たす最大の責任だと肝に銘じています。

## 「NRI品質キープアップ活動」

社会や産業を支えるシステムを提供するNRIグループは、揺るぎない品質を会社存続のよりどころとしています。2013年からは品質を堅守し、さらなる向上を目指すため、「NRI品質キープアップ活動」を展開しています。この活動では、システムを運用するデータセンターでの訓練、本番稼働システムでの障害撲滅、品質を支える社員の労働環境改善などを行い、成果を上げています。



## 業務革新によって、企業の力を伸ばす



資生堂の総合美容サービス

ITの持つ力で  
企業のさらなる成長を支えます。

NRIグループは創業以来、幅広い業種の企業が抱える課題を解決し、時代を先取る事業・サービスの創出に努めてきました。こうした活動の源泉が、ナビゲーションによって業務革新を導き、ITを活用したソリューションによってその実現を促すNRIグループの「総合力」です。株式会社資生堂のオンラインビジネス「ワタシプラス」と「Beauty & Co.」では、事業モデルの企画段階から情報システムの設計・開発、運用、また新事業の定着と改善支援まで関わり、資生堂が目指す国内化粧品事業の変革を支援しています。「ワタシプラス」は消費者と資生堂の商品・サービスをつなぐ仕組みとして、「Beauty & Co.」は自分らしく美しく暮らすための応援サイトとして活用されています。このほか、不動産情報サイト「SUUMO」のWebシステムなどさまざまな場面で、生活者の利便性とビジネスモデルとの関係を見据え、企業のさらなる成長を支えています。

### より良い住まい探しを応援する「SUUMO」

株式会社リクルート住まいカンパニーは、不動産情報サイト「SUUMO」を運営しています。同社が目指すのは、住まいを中心とした暮らしの進化を追求し、幸せな個人や家族をもっと増やすこと。NRIグループはWebシステムの面で「SUUMO」を支えながら、「住まい」領域における同社の事業成長をお手伝いしています。



**SUUMO**  
スーモ

## CO<sub>2</sub>を減らし、エネルギーの無駄をなくす



共同利用型サービスや省エネ技術によって  
環境負荷の軽減を続けています。

一人ひとりがマイカーを使わず電車やバスを利用するほうが、エネルギーの消費は少なく、CO<sub>2</sub>排出量も抑えられます。これと同じことが企業の情報システムにも当てはまります。NRIは、一つの情報システムを複数の企業で利用する「共同利用型サービス」を、多様な分野で提供しています。証券会社向け総合バックオフィスシステム「STAR」のほか、投資信託窓口販売支援システム「BESTWAY/JJ」、インターネットバンキングの仕組みを支える「Value Direct」などがあります。企業が独自システムを開発して運用するよりも共同で利用するほうが、CO<sub>2</sub>もコストも大幅に削減できることがNRIの試算で明らかになっています。NRIは、こうした共同利用型サービスを運用するデータセンターにおいても、最先端の省エネ技術を活用することなどによって、地球環境に配慮した取り組みを続けています。

### 高度な環境性能を誇るデータセンター

NRIの東京第一データセンターは高度な環境性能を備えています。サーバ機器と設備機器を置くエリアを上下に分けたダブルデッキ構造は効率的な空調システムを実現し、高温冷水利用<sup>※</sup>やフリークーリングは従来の約半分の電力でシステムの稼働を可能にしました。その結果、CO<sub>2</sub>排出量の大幅削減を実現しています。



※水温は14～15℃程度。通常使用される7℃程度の冷水よりも電力消費を抑えられる。

# 脅威やリスクから、社会と生活を守る



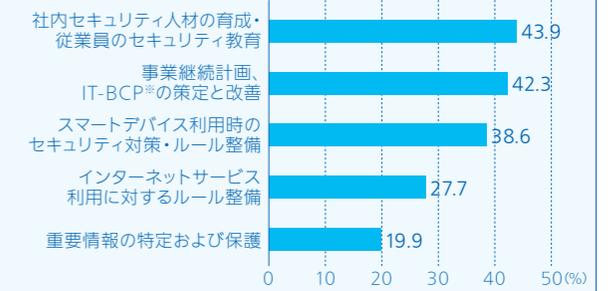
共同利用型システムの障害運用訓練の様子

事業継続の体制を整備し  
社会の安心・安全を支えます。

情報システムやネットワークが社会のインフラとして広がるなかで、新たなリスクや脅威も生まれています。天災などの事態にシステムが停止すれば、社会に及ぼす影響は甚大です。NRIグループは、こうした緊急時にも事業を継続させるための体制を整えています。例えば2013年、データセンターでの停電発生を想定して、全社レベルで大規模障害運用訓練を実施しました。3つの対策本部を立ち上げ、総勢350名が参加。同時にグループ社員による緊急時メールの送受信確認や大阪のバックアップセンターと連携した社内ネットワークの接続確認なども行いました。また、個別の共同利用型システムにおいても障害運用訓練を実施しています。緊急事態においても情報システムを守り、徹底して事業を継続させる。それが社会の安心・安全に向けたNRIグループの基本姿勢です。

## 情報セキュリティ専門のNRIセキュアテクノロジーズ

サイバー攻撃などの脅威が増すなかで、NRIセキュアテクノロジーズは、企業の情報セキュリティの確立を支援し、情報化社会の安心・安全を支えています。高度セキュリティ運用・監視をはじめ、コンサルティング、ソリューション導入、教育研修などの多様なサービスを提供するほか、情報セキュリティに関する動向を毎年調査し、その結果を公表しています。



2013年度に企業が重視する情報セキュリティ対策（上位5項目）

※BCP:事業継続計画

# 誰もがいきいきと働ける会社であってこそ



「NRIきッズ会社訪問！」で職場を訪れた家族

多様な社員がいきいきと働ける  
環境づくりを進めています。

NRIグループでは、社員が健全にいきいきと働ける職場環境づくりを目指して、多様な人材の活用、グローバル人材の育成、労働環境の改善など、さまざまな取り組みを進めています。2013年には社員の健康増進や疲労回復と障がい者雇用の推進を図るため、国内4拠点到マッサージ室を開設しました。マッサージ師の資格を持つ社員による施術は、利用者から高い評価を得ています。また、社員やその家族に会社や仕事に対して親しみを抱いてもらう目的で、社員の家族を会社に招く「NRIきッズ会社訪問！」も毎年開催しています。長時間労働を抑え、社員の意識を変えていくことで、ワーク・ライフ・バランスの向上を促進。自身の健康や家庭生活も大切にしながらか能力を十分に発揮できる。そんな職場環境が、NRIグループのさらなる成長につながっています。

## 女性が活躍する会社を目指す「NRI Women's Network」

「NRI Women's Network(NWN)」は、NRIグループの女性社員のキャリア形成支援、仕事と育児の両立支援、より良い企業風土の醸成を目指して活動を続けています。NWNが立ち上げた社内サイトでは、随時情報を更新しながら、女性が活躍できる社内環境づくりを支援しています。



NWNの社内サイト

## 社会と向き合い、誠実な経営を続ける



さまざまなステークホルダーとの意見交換

ステークホルダーと意見を交わし  
 社会の期待に応える努力を続けていきます。

本業を通じた社会的責任(CSR)を基本姿勢とするNRIグループは、社会の信頼を損なうことのないよう、さまざまなステークホルダーの声に耳を傾け、事業活動に取り組んでいます。2013年度はステークホルダーと直接対話する機会を重視し、多くの方々との間で率直に意見を交わしました。顧客、企業アナリスト、マスコミ関係者、CSR有識者などを交えた「有識者ダイアログ」では、社会から見たNRIへの期待、役割について意見を交換しました。全国5都市で開催した大学(院)生との「学生ダイアログ」では、働くことやワーク・ライフ・バランスなどについて議論しました。NRIグループの社員が集まった「社員ダイアログ」では、中長期的な視点で外部からの期待にいかに対応していくかを話し合いました。これからもステークホルダーとの対話を続けながら、社会の要請に応え、誠実な経営を続けていきます。

### 「誠実な企業」賞2014の最優秀賞を受賞

2014年にNRIは、『「誠実な企業」賞2014-Integrity Award-』の最優秀賞を受賞しました。この賞は、企業の社会的責任や企業倫理、コンプライアンスなどにおいて優れた取り組みを行っている企業に贈られます。「誠実な組織体制という基盤の上に、持続可能な社会をつくるために、企業経営としてどのような行動・変革を起こしているか」という視点で評価されました。



# NRIグループのCSR方針

NRIグループは、第一に本業を通じて社会への責任を果たすことをめざします。同時に、本業の遂行に間違いや不正が起こらないよう留意し、社会との信頼関係の構築に努めます。本業における日々の確かな積み重ねこそ、私たちのCSRがめざすものです。そして、人々の心にとどく社会貢献を行うことで、ステークホルダーとの深いきずなを構築します。

## 3つのCSR活動——本業の責任、社会へのきずな

私たちの社会的責任の第一は「本業を通じて社会への責任を果たす」ことにあります。それは「未来社会のあり方を提言し」、「社会を支える情報システムをつくる」ことです。「ナビゲーション×ソリューション」という私たちの事業内容そのものの着実な遂行にほかなりません。私たちは、「お客様の競争力・業績の向上」と「日本と世界の持続的成長」に貢献することで、より良い未来社会を創発します。

私たちは、本業の遂行に際して、間違いや不正が起こらないように細心の注意を払います。社会との信頼関係を築き、NRIグループの企業価値を守るために、あらゆる法令を遵守することはもちろん、社会・文化的モラルにもとる行為を行いません。そのために、具体的な制度、体制を整備し、徹底します。

## ステークホルダーとの関係

私たちのステークホルダーは、「お客様」「社員・家族」「株主・投資家」「ビジネスパートナー」を中核とし、「消費者」「メディア」「地域社会」「業界団体・同業他社」「行政」「教育・研究機関」「学生」「NGO・NPO」に至る広がりをもっています。ステークホルダーごとの特性に応じたコミュニケーションを緊密に保ちながら、より良い未来社会の創発と、社会とのより強い信頼関係の構築につなげていきます。



私たちは、人々の心にとどく社会貢献を通じて、社会とのきずなを深めるよう努めます。NRIらしいきずなづくりを推進するために、新しい社会を洞察するための情報を発信し、次世代社会を担う若者や経営者の育成を支援します。そして、ステークホルダーとともに、より良い社会の枠組みづくりに積極的に取り組みます。あらゆる機会を通じてステークホルダーとのコミュニケーションを図り、本業での確かなCSR活動を内外にわかりやすく伝えます。

## NRIらしい社会貢献

心にとどく社会貢献をめざす

### 攻めのCSR

本業を通じて社会への責任を果たす

### 守りのCSR

社会との信頼関係を築く

# CSRの重点テーマ

NRIグループがCSRを推進するうえで、特に重点的に取り組む項目を「重点テーマ」として設定しました。

## 1 未来に向けた持続可能な社会づくり

社会は豊かさを求めて成長を続けてきましたが、一方でその限界も見えています。増加する人口、枯渇する資源、地球温暖化などのマクロな問題から、国や地域毎の経済、産業、暮らしに関わるミクロな問題まで、次の世代に先送りできない問題が山積しています。NRIグループは、こうした社会課題に対して、調査・研究をもとにした提言や新たな社会の枠組みづくりを通じて、課題解決に貢献していきます。

## 2 人々の暮らしを支える情報インフラの提供

現代社会において情報システムは、経済や産業、暮らしを支えるライフラインのひとつです。また、限られた資源を効率的に活用できるようにしたり、新たな仕組みと価値を生み出したりします。こうした情報システムを企画・開発し、安定的に運用することがNRIグループの事業の根幹です。信頼される情報システムをつくり、動かし、守り続けることで、社会や暮らしを支えていきます。

## 3 イノベーションを創出する人づくり

「未来創発」を実現するには、新しい価値や枠組みを考え、変革を創出する人材が欠かせません。そうした人材の育成のために、多様な働き方を受け入れる制度や環境づくり、育成や評価の仕組みづくりなどを推進しています。また、日本や世界の未来を支える学生たちを育てていくことも大切です。NRIグループでは若者の育成を支援するさまざまな施策に取り組んでいきます。

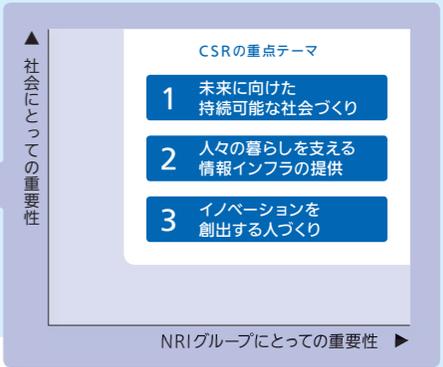
## CSR重点テーマの設定プロセス

**ステップ1**  
ステークホルダーダイアログ 1  
NRIグループの活動に対して、さまざまなステークホルダーからご意見を伺う対話（ダイアログ）を実施しています。ダイアログを通じて、外部から見えているNRIグループの姿と、自らが抱く姿とのギャップを認識するとともに、NRIグループに対する要請や期待を把握しました。

**ステップ2**  
社会的課題の把握 2  
ステークホルダーとのダイアログで得た意見をもとに、ISO26000などCSRに関する各種国際基準やガイドライン等から課題の重要性を判断し、NRIグループに関わる社会的課題を把握、整理しました。

**ステップ3**  
重点テーマの設定 3  
〈NRIグループの事業の特徴・強み〉、および〈社会的課題の把握〉を踏まえて、NRIグループの事業活動が社会に与える影響、および社会的課題がNRIグループの事業活動に与える影響の両面から、重要性が高いと判断するCSR重点テーマを設定しました。

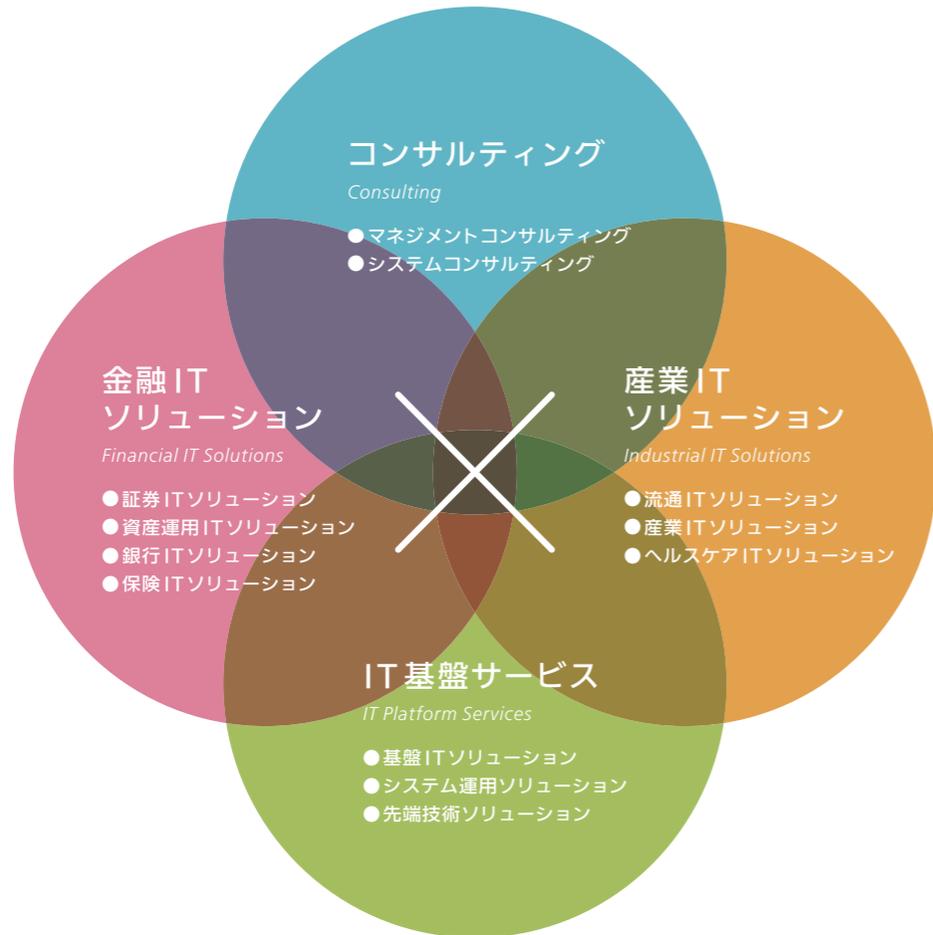
**ステップ4**  
承認およびレビュー 4  
重点テーマについては、CSRに関連する部署との間での確認を経たのち、経営層による承認を得ました。今後は、重点テーマに基づく活動をステークホルダーダイアログなどにおいて、報告し意見を収集するとともに、重点テーマを見直す機会としていきます。



# 企業や社会、人々の暮らしを あらゆる領域で支えるNRIの事業

NRIは、「コンサルティング」「金融ITソリューション」「産業ITソリューション」「IT基盤サービス」の4つの事業を通して、社会の仕組みづくり、お客様のビジネス、人々の快適な暮らしを支えています。これらの事業活動を進めていくとき

に、軸となるのが「ナビゲーション×ソリューション」です。4つの事業それぞれで、あるいは事業横断的に「ナビゲーション×ソリューション」を機能させながら、私たちのサービス価値を高めています。



# 未 来 創 発



## CSRブック2014 編集方針

野村総合研究所はNRIグループのCSR(企業の社会的責任)に関わる取り組みをステークホルダーの皆様を理解していただくとともに、社内外とのコミュニケーションを図り、NRIグループの取り組みの向上につなげていくことを目的として2005年から「CSR報告書」を発行しています。「CSR報告書2014」は本冊子(CSRブック2014)と、インターネット上で公開する電子版で構成されます。CSRブック2014はステークホルダーの皆様にとって関心の高い内容や、NRIグループがお伝えしたい内容を、親しみやすく、読みやすくまとめるよう努めました。電子版では、3つの重点テーマを中心とした取り組みや関連情報を詳細に報告します。また、インターネット上でNRIグループと社会の持続的発展のために行っているCSR活動を、役職員の声や事例を通じて紹介しています(「CSR活動File」)。

### CSR報告書2014

1年間のCSR活動の概要をわかりやすく説明	3つの重点テーマを中心とした取り組みや関連情報を詳細に説明	NRIの事業や活動をCSRの視点から具体的なかつタイムリーに解説
本冊子 「CSRブック2014」	PDFファイル 「CSR報告書2014」電子版 <a href="http://www.nri.com/jp/csr/">http://www.nri.com/jp/csr/</a> 2014年9月末に公開予定	インターネット上 「CSR活動File」 <a href="http://www.nri.com/jp/csr/activities/">http://www.nri.com/jp/csr/activities/</a>

### 対象組織

NRIの活動報告を中心に、一部の項目ではNRIグループ全体やグループ各社の活動について取り上げています。

### 対象期間

2013年度(2013年4月1日~2014年3月31日)の取り組みを中心に、一部、過去の経緯や2014年4月1日以降の活動、将来の活動予定についても記載しています。

### 公開年月

2014年6月(前回公開2013年6月、次回公開予定2015年6月)

### 商標について

本冊子に記載されている社名・製品名などの固有名称は、各社の商標または登録商標です。

### 免責事項

本冊子にはNRIグループの過去と現在の事実だけでなく、発行時点において入手できた情報に基づいた計画や予測が含まれています。諸与件の変化によって、将来の事業活動の結果や事象がこの計画や予測とは異なったものとなる可能性があります。

### 「CSRブック」や「CSR報告書」に関するお問い合わせ先

株式会社野村総合研究所  
コーポレートコミュニケーション部 CSR推進室  
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビル  
Tel: 03-6270-8200 Fax: 03-6270-8800  
E-mail: nri-csr@nri.co.jp



野村総合研究所  
Nomura Research Institute

NRIグループ

野村総合研究所 モスクワ支店 NRIネットコム NRIセキュアテクノロジーズ 北米支店 ユービーセキュア NRIワークプレイスサービス NRIデータiテック NRIサイバーバテント NRI社会情報システム  
NRIプロセスイノベーション NRIシステムテクノ だいごう証券ビジネス 日本クリアリングサービス ジャパンビジネスサービス ケーシーエス NRIホールディングス・アメリカ NRIアメリカ NRIアイ・ティ・ソリューションズ・アメリカ  
NRIヨーロッパ ルクセンブルク支店 NRI北京 NRI上海 NRI大連 NRI APAC マニラ支店 ジャカルタ駐在員事務所 NRI香港 NRI台湾 NRIソウル NRIインド NRI FT India NRIタイ

株式会社 野村総合研究所

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビル Tel.03-5533-2111  
<http://www.nri.com/jp/>

無断転載禁止 Copyright © 2014 Nomura Research Institute, Ltd. All Rights Reserved.

本冊子は、読みやすいユニバーサル  
デザイン文字を使用しています。

